

令和5年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 2 健康で安心な生活基盤の整備

| | | | |
|-------------|-----|----|--------------|
| 主要課題 | No. | 19 | 高齢者の見守りと権利擁護 |
|-------------|-----|----|--------------|

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ● 主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

| | |
|-----------------|---|
| 4年後の目指す姿 | 高齢者が住み慣れた地域で多くの人に見守られながら、虐待防止や成年後見制度の利用など、個々の状況に応じた適切な支援を受けている。 |
| 計画期間の方向性 | <p>○地域の見守り・支え合いの体制強化 高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した生活を継続できるよう、地域の関係者が相互に連携して、見守り、支え合う体制を強化し、支援を必要とする高齢者を適切なサービスにつなげます。</p> <p>○高齢者の権利擁護の推進 福祉や介護などの支援が必要な高齢者が、適切なサービスを主体的に選択できるよう、福祉サービスの利用支援を進めるとともに、虐待防止や成年後見制度の普及に取り組むなど、高齢者の権利擁護を推進します。</p> |

0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）

高齢者見守り相談窓口事業における見守り相談や生活実態把握に加え、高齢者等見守りあんしん電話事業、ハートフルネットワークの協力機関等との連携により、地域の見守り体制の強化を図ります。

文京ユアストーリーについては、引き続き、日常的な問合せへの対応等を通して必要な支援を届けるとともに、実際の日常的な支援・死亡時の支援のノウハウを蓄積して検証することで、利用者の安心が図られる安定したサポートを提供していきます。

また、今後も高齢者虐待等の相談に適切に対応するとともに、権利擁護については、引き続き中核機関における取組を通して、地域における連携ネットワークを強化し、支援を必要とする方に寄り添った支援を行ってまいります。

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で・何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

| 事業番号 | 事業名称 | 所管課 | 事業の持つ役割 | 事業費(千円) |
|------|--------------------------------------|-------|---|---|
| 76 | ハートフルネットワーク事業 | 高齢福祉課 | 地域ぐるみの支え合いと見守りネットワークを構築する。 | 187千円 (444千円) |
| | 主な取組実績 | | | 単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) |
| | ① 協力機関数 | 団体 | 655 653 652 646 680 | |
| 77 | 地域包括支援センター（高齢者あんしん相談センター）の充実 | 高齢福祉課 | 高齢者の総合相談窓口として、様々な相談に対応し、必要なサービスにつなげる。 | 348,165千円 (365,060千円) |
| | 主な取組実績 | | | 単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) |
| | ① 総相談件数 | 件 | 37,874 39,286 42,067 37,183 39,973 | |
| | ② 高齢者見守り相談窓口事業の相談件数 | 件 | — — 3,342 5,148 5,916 | |
| 78 | 高齢者緊急連絡カードの設置 | 高齢福祉課 | ひとり暮らし高齢者等の緊急事態に、適切な対応を図る。 | 890千円 (1,222千円) |
| | 主な取組実績 | | | 単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) |
| | ① 緊急連絡カード設置人数 | 人 | 6,525 7,056 7,185 7,678 7,545 | |
| 198 | 高齢者等見守りあんしん事業 (旧：高齢者等見守りあんしん電話事業) | 高齢福祉課 | 社会的な孤立化や、生活不活発による健康二次被害が懸念される高齢者等を見守り、心や体の不安の解消を図る。 | 1,952千円 (2,535千円) |
| | 主な取組実績 | | | 単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) |
| | ① 高齢者等見守りあんしん電話事業の利用者数（実数） | 人 | — — — 54 89 | |
| | ② 高齢者見守り電球事業 | 人 | — — — — 99 | |
| 79 | 成年後見制度利用支援事業 | 福祉政策課 | 権利擁護に係る支援を必要とする高齢者や障害者の、早期発見と継続的な支援を行う。 | 8,660千円 (12,464千円) |
| | 主な取組実績 | | | 単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) |
| | ① 成年後見相談（社会福祉協議会） | 件 | 1,375 974 775 1,114 1,495 | |
| | ② 成年後見学習会・親族後見人学習会 | 人 | 142 219 38 154 208 | |
| | ③ 成年後見人等報酬助成 | 件 | 8 15 9 18 24 | |

| | | | | | | | | | |
|--------------|---|-------|---|-----------|----------|----------|----------|----------------------|----------|
| 80 | 文京ユアストーリー | 福祉政策課 | 身寄りのない高齢者の意向に沿いながら、人生の最後まで安心して暮らすために必要な支援を行う。 | | | | | 1,749千円 (2,339千円) | |
| | 主な取組実績 | | 単位 | H30(2018) | R1(2019) | R2(2020) | R3(2021) | R4(2022) | R5(2023) |
| | ① 問合せ実績 | | 件 | — | 45 | 45 | 35 | 43 | |
| | ② 契約実績 | | 件 | — | 2 | 9 | 4 | 8 | |
| ③ 啓発イベント参加者数 | | 人 | — | 62 | 中止 | 中止 | 中止 | | |
| R2(2020) | 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、啓発イベントを中止し、年間2回終活情報提供レターを希望した193人(延べ人数)に送付しました。 | | | | | | | | |
| R3(2021) | 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、啓発イベントを中止し、年間2回終活情報提供レターを希望した210人(延べ人数)に送付しました。 | | | | | | | | |
| R4(2022) | 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、啓発イベントを中止し、年間2回終活情報提供レターを希望した223人(延べ人数)に送付しました。 | | | | | | | | |
| ●特記事項(実績の補足) | | | | | | | | | |

| | | |
|--|-----------------------------------|--|
| 2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか(社会環境等の変化) | | 人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。 |
| チェック | チェック項目 | |
| 無 | 主要課題に関連する法改正があった(今後、法改正がある) | |
| 有 | 主要課題に影響を及ぼす変化等があった(今後、変化等の可能性がある) | |
| <p>コロナ禍で社会的つながりが減少しており、地域での緩やかな見守り・支え合いの機能の弱体化が懸念されました。令和5年度は、5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類感染症になり、地域社会が日常を更に取り戻していく過程に入っていくものと予想されます。また、新型コロナウイルスの感染流行により将来への不安が高まり、終活に関する問合せが随時、寄せられています。</p> <p>4年度から5年間の第二期成年後見制度利用促進基本計画が閣議決定され、尊厳のある本人らしい生活の継続と地域社会への参加を図る権利擁護支援を推進することが掲げられました。</p> | | |

3 現総合戦略における成果や課題は何か (点検・分析)

1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。

○地域の見守り・支え合いの体制強化

ハートフルネットワークについては、年々協力機関が増加し、様々な民間事業者等と高齢者あんしん相談センターとの間で連携が図られることにより、見守り体制の着実な強化につながっています。また、令和3年7月から開始した、高齢者等見守りあんしん電話事業の電話による見守り活動や健康相談等により、高齢者の孤立化の未然防止や不安解消につなげました。

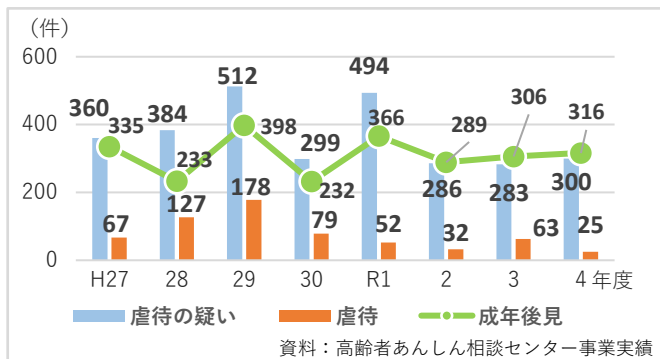
また、高齢者あんしん相談センターが行う高齢者見守り相談窓口事業においては、訪問等により高齢者の生活実態を把握することで、介護保険サービスの利用等の支援が必要な高齢者の早期発見・早期対応につながっていますが、複合化・複雑化した課題を抱える世帯も見受けられるため、分野横断的な支援のあり方について検討していきます。

○高齢者の権利擁護の推進

成年後見制度の利用促進を図る中核機関を社会福祉協議会に委託して設置し、法律・福祉の専門職による助言等の支援や、関係機関等の協力・連携強化を図る会議を運営しています。この取組により、支援を必要とする本人の意思決定の重要性や、成年後見に留まらない権利擁護の担い手を育成する必要性を認識し、今後の地域における権利擁護支援のあり方を検討することとなりました。

また、関係機関を対象として、研修会やガイドブック等による制度や事業の周知を行うことで、本区における権利擁護の取組が浸透しつつあります。より適切な支援を行うために、関係機関が中核機関の運営する会議を活用する機会が増え、成年後見制度利用支援事業の利用者も増加しました。また、虐待に関する相談の件数としては減少していますが、複雑で解決が困難なケースもあり、引き続き関係機関と連携しながら適切に対応するとともに、高齢者の権利擁護のため、必要に応じて成年後見制度も活用していきます。

●高齢者虐待等に関する相談件数



4 次期総合計画において、どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。

高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した生活を継続できるよう、ハートフルネットワーク事業の周知・啓発活動に加え、IoTによる見守り支援を活用するとともに、定期的に高齢者あんしん相談センターと協力機関等が参加する連絡会を開催し、一層のネットワーク強化を図ります。

また、高齢者あんしん相談センターが行う高齢者見守り相談窓口事業では、訪問時に複合化・複雑化した課題を抱えるケースを把握することもあるため、区や関係機関と連携し、分野横断的な支援方策を検討します。

さらに、権利擁護支援が必要な人が、本人らしい生活が継続できるよう、成年後見制度のほか、権利擁護の担い手を育成する取組により、権利擁護支援の地域連携ネットワークの強化を図るとともに、身近に頼れる親族がいない高齢者の方への支援に向け、社会資源や専門職とのより一層の連携強化を推進していきます。

5 6年度、事業をどうするか（事業の見直し）

主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。

| 事業番号 | 計画事業名 | 所管課 | 次年度の方向性 |
|------|------------------------------|-------|---------|
| 76 | ハートフルネットワーク事業 | 高齢福祉課 | 継続 |
| 77 | 地域包括支援センター（高齢者あんしん相談センター）の充実 | 高齢福祉課 | 継続 |
| 78 | 高齢者緊急連絡カードの設置 | 高齢福祉課 | 継続 |
| 198 | 高齢者等見守りあんしん電話事業 | 高齢福祉課 | 継続 |
| 79 | 成年後見制度利用支援事業 | 福祉政策課 | 継続 |
| 80 | 文京ユアストーリー | 福祉政策課 | 継続 |